令和４年１１月２８日（月）　【旧１１月５日　小雪　朔風払葉（きたかぜこのはをはらう）　太平洋記念日】　第２８号

豊見城市立伊良波中学校　令和４年度　学校だより　　発行：校長　伊井　秀治

【教育目標】総合目標　知性を磨き、心を見つめ、チャレンジする生徒

# チャレンジ☆アイ

◎自主性、創造性のある生徒（知育）
◎情操豊かな生徒（徳育）
◎健康でたくましい生徒（体育）

## 【１学年 体験型職業人講話】～体験して興味と理解が深まった！～

１１月２１日（月）の５・６校時に１学年で「体験型職業人講話」がありました。１１月８日にも職業人講話がありましたが、今回は「体験型」ということで、いくつかの職業では簡単な体験をすることができました。

当日は、右の表の９つの職業の講師をお招きし、各学級で５校時に１名、６校時に１名の計２名の講師の話を聞きくことができました。生徒たちは、実際に体験をしたり、メモをとりながら講師の話を興味深そうに聞いていました。今回は、前回にもまして職業への関心が高まったように感じました。

**講師の皆さんの紹介（敬称略）**

| No. | 職業・事業所 | 講 師 名 |
|---|---|---|
| ① | 保育士 | 高村滋人 |
| ② | 漁師 | 大城和也 |
| ③ | 美容師 | 髙岸春香 |
| ④ | ホテリエ | 浜川和樹・田中真凛 |
| ⑤ | 沖縄こどもの国 | 髙江洲義尚 |
| ⑥ | ｽﾎﾟｰﾂｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ | 笠原美紀・土屋亮 |
| ⑦ | 消防士 | 上原槙 |
| ⑧ | 警察官 | 仲宗根健汰 |
| ⑨ | 公務員(市役所) | 金城温大 |

## 【一人一研究授業⑨】～金城美月教諭、空手の授業～

１１月２２日（火）の６校時に金城美月先生・下地貴之先生の体育の公開授業がありました。今回は、１年７・８・９組の男女共修の武道「空手」の授業でした。生徒たちは「普及型１」の後半部分の動きをタブレットの動画やグループで確認し、「突き」や「受け」の位置に気を付けながら覚えていました。全員で息を合わせ迫力のある演武ができるのが楽しみです。期待しています！

## 【教職２年目研修】～當間嗣学教諭が音楽の研究授業～

１１月２４日（木）の６校時に當間嗣学先生の音楽の研究授業が２年３組でありました。今回は、創作分野の授業で「自分たちでつくるオリジナル学校チャイム」という内容でした。生徒たちは、「美術の時間に一人一人の作品から楽しいメロディが聞こえるイメージ」や「放課後前の楽しく弾むようなメロディ」など、教科や学校生活の様々な場面からイメージをふくらませて、個人やグループで４小節分のオリジナルチャイムを考え五線譜を完成させました。そして、タブレットＰＣで「バーチャルピアノ」などのアプリを使って実際に音を出し、メロディー、リズム、テンポなどを工夫してオリジナルチャイム作りに励んでいました。少し難しそうでしたが、グループで楽しく取り組んでいました。

## 【LGBT講演会】～「ちがい」や「自分らしさ・個性」の大切さを考える～

１１月２５日（金）の５・６校時に、ＮＰＯ法人「レインボーハート okinawa」理事長の竹内清文さんをお招きし、ＬＧＢＴや性の多様性について考える授業がありました。

５校時は、２年生は体育館、１・３年生は教室（リモート）で竹内さんの講演を聞きました。講演では、「周りとちがっても大丈夫！」というテーマで個性や自分らしさについて考えた後、ＬＧＢＴ（レズビアン・ゲイ・バイセクシャル・トランスジェンダー）についての説明や竹内さんご自身の小学生時代から大人になってカミングアウトするまでの話がありました。両親にカミングアウトして受け入れてもらえなかった時は辛かっただろうなと思いました。また、ＬＧＢＴの約９割の人は親や先生に相談することが出来ず６割以上の人が自殺を考えたことがあることや、外出時にトイレで困ることが多く最近「だれでもトイレ」が増えてきたことなどの話がありました。６校時は、各学級でグループワークを行いました。竹内さんがリモートで全学級に指示を出し、①個性や多様性を「認めるってどういうこと？」、②「十人十色の学校ってどんな学校だろう？」という２つの問いについて、個人で考えたりグループで考えを共有したりしました。

今日の講演会＆グループワークでは、ＬＧＢＴや性の多様性についての理解を深めると共に、「一人一人のちがい」や「自分らしさ・個性」の大切さについて考え、それを尊重することの大切さを学ぶことができたと思います。

【生徒の感想】

私は今日の講演を聞いて、人と違うことは、おかしいことでも悪いことでもないんだなと安心しました。もしかしたら、これから生きていく中で私の周りにＬＧＢＴＱのことで悩んでいる人に出会うかも知れません。私はそのような人に出会ったときには相談に乗って、否定することなく相手の話を受け入れてあげたいと強く思いました。また、逆に、ＬＧＢＴＱについて理解できない人に対して「なぜ理解できないの？」と強く当たるのではなく、どういう理由があって理解できないのかなど、ゆっくり話し合って、ゆっくり理解していくのがみんなが平等に生きていくための第一歩になるのかなと考えました。（２年　女子）